



新潟青陵幼稚園

伊藤純子 石橋はるみ

ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか？楽しい思い出がたくさんできたことでしょうね！さて、5月は新潟で一番気持ちの良い季節です。青葉の輝きが目に飛び込んできて眩しいくらいです。木々の間を吹く優しい風を感じながら、お散歩に出かけましょう！青陵幼稚園の周りには自然がいっぱいです。さわやかな季節を思う存分楽しみたいと思っています。お散歩を計画いたしましたので、どうぞご参加ください。お待ちしております。



5月の予定 (計8回)

- ・ 8日、15日、22日、29日・・・火曜日はつぼみルームで遊びます。
- ・ 10日、17日、24日、31日・・・木曜日は大学の体育実技室で遊びます。直接、実技室へおいでください。
- ・ おにぎり持ってピクニック！・・・今月は外でご飯を食べたいと思います。



24日(木)、29日(火)を予定していますのでご参加ください

持ち物 おにぎり、飲み物、敷物、着替え

集合場所 24日は実技室、29日はつぼみルーム

出発時間 10:15

*森の中を歩いたり、海を見たりしましょう。終了後、現地解散です。

とご持参
下さいね。

青陵幼稚園・園長の
4月の園だよりも載せました。

子どもたちは“大きくなる”ということを中心から喜んで自分自身を成長させていくように思えます。こうした思いを持つことは自分で自分を育てることにつながりますね。“意識する”ということは重要なことなのです。自分の内側・内面からそう思い、自分でそのことに向かって進むことができます。もちろん、子どもが自分で意識できるようになる機会や、“意識する”ことができるきっかけとなるいい意味での大人の言葉等が必要です。——しかし“意識させられる”こととは違います。私たち大人はつい“意識させる”という押しつけがましいことをしてしまいがちなのです。「ねえ、あなたは〇〇なのよ、もう〇〇にならなくちゃ・・・」これは大人が一方的に大人の思いを言葉にしているのですが——どういう言葉が、子どもが自分で意識するために必要であるか、十分に考えることが求められます。“言葉”を大切にしていきたいと思います。

いわゆる自己教育というものは、“自分で意識する”あるいは“自分でそう思う”ということが必要です。ちなみに、職員の勉強会の時に、ある本のこんな言葉が紹介されました。「子どもの隣で生きる大人という存在が重要な役割を担うが、大人であるとはどういうことであるか、現実には大人になりきれていない大人であり、不完全で未熟な私たちである、しかし、“大人になろうと思いきる”・・・つまり、“自分は大人なのだ”と決意する」ことで、大人へと変わっていくことができる・・・」このような内容でした。ほんとうの意味での大人とは、どのような人のことを言うのでしょうか・・・一人ひとりが自分で自分に問い続けていかなければならないのでしょうか。この「自分は大人なのだ」と決意するということは、子どもが“自分で意識する”ということと同じなのです。真の大人になりきれていない自分自身であることを思いつつ、「自分は大人なのだ」と決意し、子どもたちのように私たち大人も自己教育し、子どもの隣で生きる大人にならなければならないということを考えさせられています。